

## おわりに

和歌山大学に地域活性化総合センター・食農総合研究所が設立されて4年目が経過した。本研究所の使命は、農業に留まらず農林水産業の分野に関係する学術的研究活動を行うとともに、地域の農林水産業の発展を図ることである。この間、食農分野の研究・調査活動を業務の重要な柱に位置づけ、その研究成果は刊行物として公表している。本冊子は、研究成果第14号『和歌山県農業展開史II』としてとりまとめたものである。本冊子のとりまとめにあたっては、辻和良氏(本学食農総合研究所・特任教授)を研究代表者(編集責任者)に、研究所員や大学現役教員・OBなどの研究者や県職員・農協職員などにとどまらず、県内で農業・農村振興に従事してこられた方々、計24名が参画し、執筆分担している。

本冊子は、研究成果第7号として発刊された『和歌山県農業展開史』の続編であり、ここで残された課題に対応すべく発刊するものである。特に、県における試験研究や農業改良普及事業の展開、都市農村交流と移住・定住の動向などを新たにとりまとめたことが特徴である。

本冊子の構成、内容について、多くの方々の忌憚のないご意見、ご批判、ご提案を切にお願いしたい。執筆者一同、本冊子が和歌山県農業のこれからを考えるうえで多少なりとも参考になればと願うところである。

令和2年度から、本学は「紀伊半島価値共創基幹」を新たに発足させ、個人研究者レベルではなく、大学組織として地域連携に取り組むこととなった。本研究所は、「食農総合研究教育センター」となり、その基幹内に配置され、これまでの取り組みを継承する組織として生まれ変わる。同センターは、紀伊半島を中心に、食と農林水産業の分野に関わる研究活動を通じて、学術研究の発展と地域社会との連携や地域貢献機能の強化に資することを目的とする。引き続き、地域の皆さま方には、ご支援とご協力を賜りますよう、よろしくようお願い申し上げたい。また、和歌山県農業展開史についても、十分に紹介しきれない部門や地域、分野などがあることから、引き続きセンターにおいて取り組んでいく予定である。

なお、本冊子の刊行にあたっては、中和印刷紙器株式会社に大変お世話になった。感謝申しあげる次第である。

令和2年3月

食農総合研究所 副所長 岸上光克